

令和 8 年度藤枝西高等学校第 1 回学校運営協議会（兼第 1 回学校評価委員会）議事録

1 日 時 令和 8 年 6 月 4 日（木） 午後 2 時から 4 時

2 場 所 藤枝西高等学校 会議室

3 参加者

（1）学校運営協議会委員

鈴木尚夫（会長）、高橋等（副会長）、杉村富士雄、福豫亜矢、山田正代、松本真由美

（2）学校教職員

原田直樹（校長）、熊ヶ谷智子（副校長）、平林朋之（教頭）、新美貴弘（事務長）

小澤竜彦（総務・図書課長）、平井康仁（教務・情報課長）、東博倫（生徒・保健課長）

藤田真由美（進路・探究課長）

4 内 容 司会：副校長（協議の進行は会長）

（1）校長挨拶

・生徒の活動状況と部活動の成果

4 月の始業から 2 ヶ月が経過し、生徒たちは学習や部活動に懸命に取り組んでいる。特に部活動では弓道部が個人で東海大会への出場が決定した。女子サッカー部、女子テニス部も、それぞれ県ベスト 8 に進出した。

・学校行事（文化祭）への取り組み

現在、文化祭を週末に控えており、生徒たちが主体的に準備を進めている。

・校長の教育方針の周知

着任時の始業式・入学式で生徒に伝えた「学ぶ目的」と「将来の生き方」について、改めてその内容を共有する。

（思考力の育成）

勉強は単なる受験対策ではなく、「頭（脳）を鍛え、思考力に幅を持たせるため」のものである。

（知識と教養）

言葉を思考の道具とし、様々な授業や活動を通じて知識と教養を身につけることが、将来人生や仕事で壁にぶち当たった際に「活路」を見出す力になる。

10 年後の予測が困難な時代において、今やりたいことを大切にしながら、その実現に向けた準備を怠らないこと。どのような場面でも柔軟に対応できる力と、チャンスを実実に物にする積極性を持つよう指導していきたい。

「将来の生き方」を支えるバックグラウンドとなるのが、「知識や教養」であり、両者は密接に関連していると考えている。

（2）任命状の交付

（3）会長及び副会長の選出（委員の互選により、鈴木会長、高橋副会長が選出された。）

（4）学校運営協議会制度・学校評価制度について（説明）

（5）学校見学（LHR の文化祭準備の様子を見学）

（6）自己紹介

（7）令和 8 年度学校経営計画について

・経営計画の変更点：信頼される学校づくりの柱において、昨年度の「安全・職員・広報」という順序を入れ替え、「職員」をトップに配置した。これは教職員に対する期待の表れである。

・働き方改革：単なる時間の削減だけでなく、教職という仕事に対する「やりがい」に時間を割けるよう、効率化やスクラップ＆ビルドを進める。

・安全指導：道路交通法改正に伴う自転車指導の強化や、令和 9 年度からの高校生ヘルメット着用義務化に向けた動き（条例改正案）について注視している。

・目指す学校像：生徒にとっても教職員にとっても「安心・安全な場」であること。それは単に楽な空間ではなく、互いの存在を尊重し、建設的な意見を自由に言い合える風通しの良い環境を指す。

（8）学校概要説明（各分掌より）

ア 教務・情報課

学習環境の整備と ICT 活用を担当。令和 9 年度入学生に向けた教育課程の編成を検討中。
生徒の自己肯定感を高め、社会に通用する力を養う授業改善に取り組む。

イ 生徒・保健課

「社会情緒的スキル（SEL）」の習得に重点を置く。また、支援が必要な生徒への配慮・情報共有を徹底する。

野球応援の変更：熱中症リスクと安全確保の観点から、希望者による選択制へと変更した。

ウ 進路・探究課

生徒が自分自身を理解し、輝ける場所での進路実現をサポートする。

外部連携の強化：地元企業とつながる「ミラジョブフェス」への運営参加や、グローバルプログラム（外国籍の方との共生をテーマとする）を実施する。

エ 総務・図書課

P T A、保護者との連携、防災、広報を担当。連絡手段を電話から C-learning へ移行するなど、信頼関係を深める仕組みの構築に努める。

(9) 意見交換

A： 2年ぶりに教育現場に復帰したが、社会の変化の速さを痛感している。生徒が社会の変化に対応していくのは大変であり、指導する先生方もあれもこれもと手を広げがちになる中、「働き方改革」という視点が入ることは重要である。

校長が述べた「やりがいのある仕事に時間を割くための改革」という方針に強く共感する。

本日、校内を歩いてみて、床が非常に綺麗で、生徒の挨拶も爽やかであることに驚いた。移転して25年経つが、これほど環境が整っているのは、生徒と先生方の努力の賜物である。「環境が人を作り、人が環境を作る」という言葉通り、この良い環境が今の生徒の清々しさを作っていると感じた。

B： 新聞等で報じられている公立高校の統合話が非常に気になっている。卒業生としても、藤枝地区が今後どうなるのか、不安の声がある。

学校：統合の話は感情を揺さぶる話題である。県からは「グランドデザイン」として、適正規模（1学年6クラス程度）の学校を作っていくという方針は出ているが、現時点で具体的な話は一切出していない。

C： 資料を見ると、国公立大学への合格者数が以前より少ない印象を受けるが、これは学校側の指導方針の変化なのか、それとも生徒自身の希望が変わってきているのか。

学校：かつては国公立合格者数を目標に掲げる時代もあったが、現在は「1人1人の希望を叶える」ことを最優先している。私立大学が年内入試制度を充実させており、多様な選択肢の中から生徒が自分のやりたいことを見つけ、早い段階で進路を決めるケースが増えている。

D： 私立無償化の影響はあるのか

学校：私立高校の授業料実質無償化の影響は無視できない。特に本校のような普通高校においては、志願者数や男女比に変化が出始めている。

E： 特別支援が必要な生徒や、外国にルーツを持つ生徒への対応はどうなっているか。特別支援学級のようなものはあるのか。

学校：特別支援学級はないが、生徒それぞれの特性（得意・不得意）を事前に把握し、教職員全体で情報共有している。必要に応じて合理的配慮を提供し安心できる環境を作っている。令和9年度から本格導入される「静岡県版 SEL（社会情緒的スキル）」についても、今から研究を進めている。

F： 大学でも「合理的配慮」が義務化されており、例えば「板書が追いつかないので写真を撮らせてほしい」といった要望が出るようになっていく。高校でも今後、多様な生徒に対応するために教員の意識を変えていく必要があるだろう。

また、通信制高校から入学する生徒が増えており、そこでは株式投資などの実社会に直結する学びを経験してくる生徒もいる。全日制高校としても、こうした多様化する学びのあり方を考える局面に来ているのではないかと。

まとめ：

本日の議論を通じ、学校が多角的な視点で生徒を支えようとしていることが確認できた。我々運営協議会委員の役割は、校長が示した経営計画に基づき、それぞれの経験値を活かして西高校の生徒と先生方をサポートしていくことにある。爽やかな西高生のために、引き続き力添えをお願いしたい。